

第26回健康生きがいづくりアドバイザー全国大会
第3部 「協議会・全国7ブロックの活性化を
ディスカッション」
「AD拡大計画分科会報告」

1. AD拡大計画報告(5分)
2. 新事業提案報告(5分)
3. 新教科書作成報告(60分)

健康生きがい開発財団 副理事長 吉田隆幸
司会 AD拡大チーム 清水国雄

1. 「AD拡大計画報告」

・AD拡大計画全般報告

- (1) 養成講座を通してのAD拡大戦略
- (2) 全国7ブロック会議の推進
- (3) 新教科書作成プロジェクトの推進
- (4) AD掘り起しの推進
- (5) AD80歳からの生き方アンケート調査
- (6) かわさき市民アカデミー講座の展開
- (7) 新事業提案による財団経営改善の推進

2. 「新事業提案結果報告」

1. 提案主旨 AD活動の活性化と財団の経営改善につながる新事業提案の募集
2. 応募者 全国ADから24名の提案が出された
3. 審査結果 審査委員会が3回開かれ、4名のヒヤリングを経て、3名の優秀作が選定された
 - (1)福祉サービス第三者評価への取り組み
 - (2)フレイル+ポールウォーキング事業で収益
 - (3)高齢者が悩む諸問題解決サポート事業
4. 今後の財団取組方針 事業化に向けて調査を進め、その後事業推進計画を作成し、年度内に実施に向け準備を進める

(1)「福祉サービス第三者評価取組事業」

- ・ **目的** AD活性化と財団の財政向上に寄与
- ・ **仕組み** 行政は社会問題を起こす福祉サービス、施設を選択する入居希望者ガイド対策のためにこの事業を行っている。
- ・ **役割** 財団は行政から評価機関として受諾できれば、AD希望者に行政の講習を受けてもらい合格後、評価委員として働いてもらう。その後財団、ADに報酬が払われるため魅力ある事業と言える。

(2)「フレイル+ポールウォーキング提案」

- ・ **目的** 財団がフレイル予防を全国展開しているが、一方で神奈川健生ではポールウォーキング活動を進めている。フレイルチェック後のおすすめ活動としてポールウォーキング活動を行政に働きかける。
- ・ **仕組み** 財団(東京大学フレイルプロジェクト)が行政にPRすることで、ポールウォーキングが全国展開につながり、高齢者の健康寿命づくりに貢献する。
- ・ **役割** 財団と協議会の良い循環ができ、協議会は事業収益が上がり、ADは指導活動が増え収入が増える。財団はフレイル事業が拡大するとともに、協議会からの賛助金が入る。

(3)「健康生きがいサポート事業」

- ・ **目的** 高齢者が悩む諸問題をサポートすることにより充実した人生100年を築く
- ・ **仕組み** まず高齢者が悩む可能性の高い問題を整理する。例として施設入居時の身元保証の問題、相続の問題、生命保険の保険に関する問題等。次にこの諸問題に対する解決方法の開発、体制ができれば会員制組織等の事業展開を進める。
- ・ **役割** 財団はこの事業展開を進め、収入を確立する、ADは講師や相談業務で収入につながる。

3. 「新教科書作成報告」

1. 新教科書作成経緯

(1) 新教科書への要望

AD拡大推進の基本は養成講座でADを誕生させることである。しかし、養成講座で使用する教科書は古すぎ、以前より全国で新教科書への要望が強かった

(2) 教科書使用状況

現在教科書を使用している関係者は①養成講座・通信講座で約150名②産業能率大学学生約250名
産業能率大学からも新教科書への要望が強かった

(3) 辻理事長の決断と熱心な指導体制

2. 新教科書執筆内容報告

- (1) 第1科目「**超高齢社会の展望と人生100年時代の生き方**」 松田誠一・卯尾直孝
- (2) 第2科目「**アドバイザーの使命・役割と必要な知識・スキル**」 松田誠一・長橋輝明
- (3) 第3科目「**長寿時代の健康づくり**」 橋爪武司
- (4) 第4科目「**超高齢社会の年金・地域包括ケアシステム**」 白井幸久
- (5) 第5科目「**地域コミュニティ活動と地域貢献**」
大下勝巳
- (6) 第6科目「**人生100年時代の家庭経済**」大川洋三
- (7) 第7科目「**中高年の就労**」 曲尾実

新教科書執筆内容報告の要点

1. **第1科目「超高齢社会の展望と人生100年時代の生き方」**
 - ・人生100年時代に向けて、超高齢社会の諸課題を抱えるなか、**新しい高齢社会を創る担い手**としてADの活躍を期待
 - ・定年後は長き人生を「**自己責任**」と「**自立した生き方**」が求められる
2. **第2科目「アドバイザーの使命・役割と必要な知識・スキル」**
 - ・人生100年に向けた具体的目標と実行方法を入れた「**ライフプラン表**」を新しく入れた
 - ・ADの必要な知識・スキルとして、**援助技術としてケースワーク、グループワーク、コミュニティーワーク**またそのための**コミュニケーションスキルが必要**

3. 第3科目「長寿時代の健康づくり」

- 中高年の健康づくりをアドバイスする場合は、加齢に伴う心身機能の変化とフレイルの概念を理解してください
- フレイル対策の3つの柱として、栄養、運動、社会参加が大切です

4. 第4科目「超高齢社会の年金・地域包括ケアシステム」

- 日本の社会保障制度として年金保険制度、医療保険制度、介護保険制度は旧来から入っていますが、成年後見制度、虐待防止、消費者保護等の個人の権利を守る制度も新しく入れています
- 地域包括ケアシステムにADの参加を期待しています

5. 第5科目「地域コミュニティ活動と地域貢献」

- 国連機関でも「長寿・健康」と「地域活動への参加」を重要視しています
- 人生100年時代高齢期の入り口で老いの課題と備えを学ぶ「100歳大学」の実施普及について述べる

6. 第6科目「人生100年時代の家庭経済」

- 公的年金が先細りする中で、健康寿命延伸と資産寿命も延ばす必要がある
- 家計は収入減少に合わせた生活のダウンサイズが必要

7. 第7科目「中高年の就労」

- 人生100年時代では少子高齢化をうけて、**定年が伸び、就労時間が長くなる**ことが想定される
- 中高年の就労については就労ニーズの多様化に伴い「**生きがい就労**」、「**ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス**」、「**シルバー人材センター**」を学ぶ必要がある